

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	山下町地区多世代交流実践事業	
事業主体 (連絡先)	株式会社 和が家 岡谷市湖畔4-1-27	
事業区分	④安全・安心な地域作りに関する事業 ⑧その他地域の元気を生み出す地域作りに関する事業	
事業タイプ	ソフト・ハード	
総事業費	3,934,404 円	円 (うち支援金: 2,939,000 円)

事業内容

1、地域作りワークショップ

実践場所：間下区民センター又は和が家日和
 実践内容：自助・互助の視点・思考を住民意識変化目的としたワークショップを開催。住み慣れた地域がより豊かに暮らせよう、子供たちのために地域で出来ることを、住民主体の話し合いを通じ形成。ワークショップ後も1回/月のペースで市域住民が参画しミーティングを継続している。

2、山下町地区の多世代交流実践事業

コミュニティハウスは木造平屋建て。12月に着工、平成30年3月に完了。ハウスは電気設備を備え、通年の運用を可能とした。



【目標・ねらい】

- ①地域住民との話し合い
- ②子供の居場所の機能性
- ③地域機能として必要性

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①②地域作りワークショップ

ワークショップ6回開催し、延べ55名参加
 日時：6月24日、7月8日、8月26日、9月16日、10月21日、11月10日。

6回目のワークショップで地域住民主体のチーム名「&HOUSE」が生まれる。その後チームとして1回/月ミーティング(11月27日、12月2日、1月13日、2月17日、3月3日)を行い運用方法の検討、イベント企画・準備を行った。現在チームメイトは21名。ミーティングには毎回8~10名が参加している。

12月20日に着工前イベントに地域住民約40名の参加。

③山下町地区の多世代交流実践事業

木造平屋建て。12月に着工、平成30年3月に完了。

※自己評価【B】

【理由】

地域住民と子供たちのために何ができるかの話し合いを通じ、施設の利用者を含めた多世代交流実践のソフト(人)ハード(場所)固めができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

1、地域ワークショップを継続し、信州子供カフェの趣旨や意義説明を行い、地域住民との共通言語を形成。参加、協力の依頼を通じ主体性的に活動するメンバーを形成する。

2、山下町地区の多世代交流実践事業

コミュニティハウスは木造を予定。6月に着工、9月に完了を予定。ハウスはトイレ、電気、水道、ガス設備を備え、通年の運用

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

(別記様式第12号) (第3の8関係)